

放射線診療および原子力利用における 看護職の役割と看護職への期待

——アンケート調査より——

Expected roles for nursing staff working
in the fields of medical and nuclear energy

加藤 知子

Tomoko KATO

東京医療保健大学

Tokyo Healthcare University

医療領域では放射線利用は日常的に行われているにもかかわらず、看護職の放射線、放射線被ばく、放射線による健康影響などの放射線に関する基本的な知識の不足が指摘されている。放射線の基本的事項についての教育は、すでに義務教育の段階でも行われる時代となっている。人のいのち・健康を預かり、患者・住民にとって最も身近な存在であることを自任し、また、医療に限らず放射線と関わる機会が多い看護職が、放射線に関する基礎知識・技術を習得していることは必須のことであり、筆者らは、看護の基礎教育の課程で放射線看護に関する知識を習得することが必要であることを強調してきた。そこで、放射線医療の現場で活動している診療放射線技師、医師 3,420 名を対象に、①放射線診療における看護師に期待する役割、②放射線診療に係わる看護師の行動の実態、③原子力災害時に看護職へ期待する役割等についてアンケート調査を実施し、基礎教育のカリキュラム構築に反映させたいと考えた。

アンケート調査（回答数：診療放射線技師；1,089 名、放射線科医；178 名）により以下の点が明らかになった。

1. 医療放射線利用において看護職は、放射線診療行為（単純・CT・IVR・核医学検査・定位放射線照射・密封小線源治療・核医学治療）のすべてに看護職が係っている。特に、CT が最も多く係っており、次いで IVR であった。
2. 医療放射線利用において看護職へ期待する業務・役割は、「造影剤等の副作用の早期発見」「患者の身体状態の急変時の対応」「放射線診療患者の不安への精神的ケア」であった。
3. 看護職の態度や行動の現状については、「放射線診療中の患者の急変時への対応」が、約 80%「適切である」と回答する一方で、「患者・家族からの質問に対する対応」「患者の移動・体位保持」「放射線診療時の看護職自身の防護方法」は、「適切でない」と回答した割合がほかの項目に比べ高かった。
4. 原子力災害における看護職の係わり・期待については、「被災者への不安に対するケア」と「看護職自身の汚染防護」を「非常に期待する」との回答が高かった。
5. 放射線診療および原子力・放射線災害時に医師・診療放射線技師などのほかの職種との連携・調整役としての役割が看護職に期待されていた。

CTやIVRの実施頻度は各診療科において、今後ますます増加する。所属診療科にかかわらず、すべての診療科に所属する看護職に対する放射線看護の視点に立った役割が期待されている。また、放射線診療および原子力・放射線災害時のほかの職種との連携・調整をする役割に対する期待も大きい。看護職が放射線に関する知識を習得し、期待される役割を課していくためにも基礎教育、現任教育の中での系統的な教育体制の構築が不可欠である。